

世界に輝く至宝 山形のさくらんぼ



愛らしい姿と高貴な甘さで、多くの人たちに愛されている「山形のさくらんぼ」。中でも山辺町の多田農園は、品質の高さに定評があります。多田農園のさくらんぼに魅了された一人、IHI代表取締役会長で山形市出身の齋藤保さんがこのたび、多田農園を訪れ、多田耕太郎代表取締役と「さくらんぼ談議」に花を咲かせました。

多田農園のさくらんぼの魅力



齋藤 多田農園のさくらんぼを以前いただいて、美しさとおいしさに感動しました。それ以来、わが家でも贈答用として毎年使っています。さくらんぼは山形を代表する果物ですので、贈り物を通して山形の宣伝になるのはとても素晴らしいことです。

多田 そうおっしゃっていただくと、生産者冥利に尽きます。満足していただけるさくらんぼを作るため、今年も頑張っています。

齋藤 親交のある日本駐箚の西欧某国大使ご夫妻にも味わっていただいたところ、

とても喜んでくださり、多田農園のファンになってくれました。

多田 そうでした。後で感激したという手書き英文のメッセージカードと、お国の高級ワインを送っていただきましたよ。

世界に通用する山形のさくらんぼ

齋藤 1970年代後半、さくらんぼの輸入が自由化され、山形のさくらんぼの行く末を心配しました。しかし、おいしさや品質をさらに高めることで、外国産の攻勢を見事にはね返し、ブランドの確立に結び付けました。山形のさくらんぼはきっと、世界に出しても通用するでしょう。

多田 確かに、海外からの引き合いが増えています。それに対し私たちは、さくらんぼの出荷期間を長くできるような工夫をしています。通常、さくらんぼが出荷できるのは6月から7月の20日間程度ですが、それを5月中旬からお盆の時期まで延ばせるようになりました。長持ちするような新品种の導入も進めています。外国の人も含め、味わう人みんなが高品質に感動していただけるような品物を作っていきたいです。



多田耕太郎
株式会社多田農園 代表取締役

齋藤 保氏
株式会社IHI 代表取締役会長

「強み」を次代に引き継ぐために

多田 今の農業が直面する問題で、一番深刻なのは「人手不足」です。さくらんぼの場合、忙しい時期は年に20日程度。それではいい人材は集まらない。機械を導入するにしても、どうしても人手に頼らざるを得ない部分がある。IHIの技術力を生かして、何かいいシステムやプログラムを開発できないでしょうか？

齋藤 人手不足は農業だけでなく、ものづくりの分野でも起こっている問題です。ロボットも決して万能ではない。機械力だけでなく、バイオテクノロジーなども応用した対策が必要ではないでしょうか。

多田 機械を入れても、使える作業内容や期間が限られ、多額の投資に対して見合わないことがあります。農機具メーカーなどと話をしても、汎用性がないなどの理由から計画の途中で話が途切れてしまうことが多くあります。

齋藤 困っていることや潜在的なニーズに対し、技術で解決を図るのが私たちの使命です。農業分野でも既に、新しい取り組みを始めています。山形のさくらんぼは、日本の農業の「強み」です。それを次代に引き継ぐため、何かお手伝いできるか考えてみたいですね。



左から多田農園の安食政史常務取締役、多田、齋藤氏



やまのべ 多田耕太郎の さくらんぼ
多田農園
〒990-0300 山形県東村山郡山辺町元宮63-2

TEL.023-664-8302 FAX.023-664-8336

http://www.tadanoen.com 山形多田農園 検索